

滋賀・湯ノ部遺跡(第一九号)

- 1 所在地 滋賀県野洲郡中主町西河原地先
- 2 調査期間 一九九六年(平8)五月～十一月
- 3 発掘機関 (財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 瀬口眞司
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文晩期後半～近世
- 7 木簡の釈文・内容

本遺跡にかかる発掘調査は、一九九〇年度以降、県道の改良工事に伴う事業として継続しており、一九九一年度には「丙子年」(六七六)の木簡が出土している(本誌第一四号)。

今回の調査では、木簡は区画溝S一一二・二〇四、土坑S四四より出土した。区画溝S一一二・二〇四からは、未完成の木製品、廃材や剝片、オガクズなどが大量に出土し、その中に木簡の削屑が混在していた。そのうち現地で抽出した木簡六点については、本誌第一九号で紹介している。これらの溝の堆積物をすべて持ち帰り、水洗選別を行なった結果、判読できる木簡が三〇点ほど発見された。そのほとんどが削屑である。比較的内容が明らかな削屑五点をここに掲載する。

S四四はS二〇四の真西約五mに位置する土坑で、四・五m×一・六m、深さ〇・七六mを測る。平城Ⅲ期の土器に類似する土器が一括して出土した。木簡(6)が土坑底面にはば接するように出土した。

区画溝S一一二・二〇四

(1) 益麻

(2) □物七里在□

(3) □□□里
[中カ]

(4) □□□
[錦カ]

(5) □□□
[大朋カ]

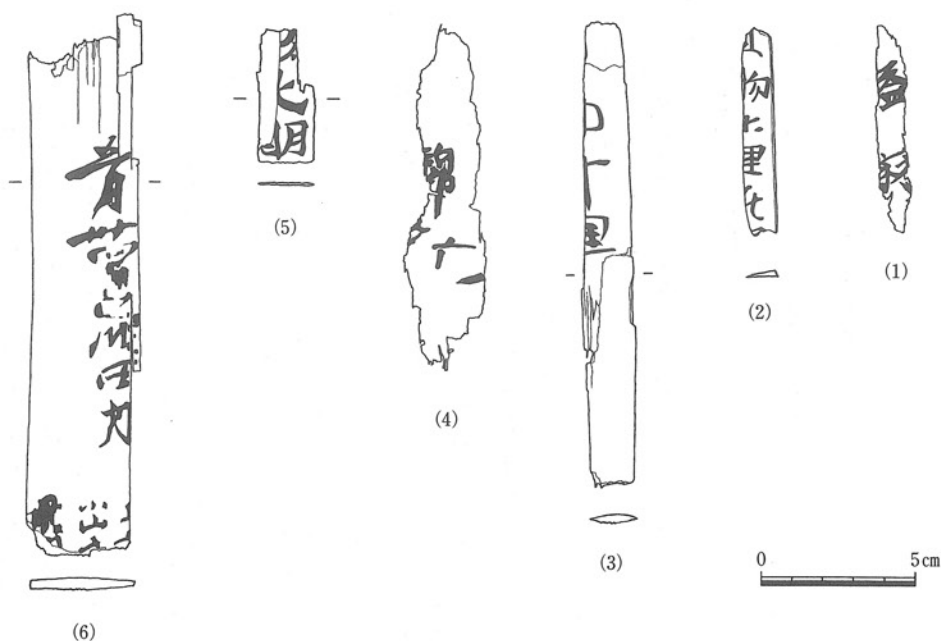
土坑S四四

(6) 五月廿四日□□田力

□□小山□
□□□

(3)の三文字目は、「十」か「寸」とみられる。

(瀬口眞司)



長野・屋代^{やしろう}遺跡群（上信越自動車道関係）
（第一八号）

- 1 所在地 長野県更埴市雨宮・屋代
- 2 調査期間 一九九四年度調査 一九九四年（平6）四月～二月
- 3 発掘機関 （財）長野県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 寺内隆夫・島田正夫・平出潤一郎・水沢教子・宮島義和ほか
- 5 遺跡の種類 集落・祭祀・溝・水田跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～近世
- 7 木簡の釈文・内容

屋代遺跡群は、千曲川の右岸の自然堤防上に立地する縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。上信越自動車道建設工事に伴って約四六〇〇㎡が調査されたが、このうち集落を横切る湿地状の流路と溝から、七世紀後半から九世紀中頃にかけての一二六本の木簡が出土した。その概要は既に本誌第一八号で紹介している。

木簡の報告書として『長野県屋代遺跡群出土木簡』を刊行したが、その後真空凍結乾燥法による保存処理を行なったことにより文字が鮮明になった結果、釈文を訂正するに至った木簡が二七点存在する。